

F D 研修会を終えて

香川大学 大学教育開発センター長
加 野 芳 正

今年も、全学共通教育を担当していただく先生方を対象にF D研修会を開催することができました。ご多忙のなか、100名を超える先生方にお集まりいただき、たいへん活発な討議ができたことを嬉しく思っています。

香川大学に限らず多くの大学でF Dが行われています。京都大学では比叡山合宿、広島大学では宮島合宿など、宿泊をともなう行われるF Dもあります。参加する前は、いやがられる先生方も多いとのことですが、終わると「良い経験になった」「勉強になった」と満足度も高いようです。忙しい毎日ではありますが、独りよがりの授業にならないためにも、授業の質を高めるためにも、全教員が様々な機会を活用して、F Dに取り組んでいただきたいと思います。香川大学の全学共通教育は全学出動という点に大きな特徴があります。全学出動であるからには、毎年継続して実施すれば、付属病院の先生方を除いて、香川大学の全教員が参加するということになります。また、大学教育の中心は学部で行う教育ですので、センターとしては、できれば専門教育を含めたF D活動に取り組みたいと考えているところです。大学の教育力を強化し、教育の質を保証していくためには、F D活動が重要であり、香川大学としての体系化を図っていく必要があります。

日本は、国際的にみて大学教員の研究志向がたいへん強い国であると言われていています。その点では、研究者としての自己認識が強い大学教員に対して、F Dは大学が高等教育機関であり、教育組織であることを改めて自覚していただく機能を持っています。とはいえ、研究志向の強い大学教員に自律的にF Dを期待することは、なかなか困難です。その点で、F Dの実践には組織的対応が不可欠です。そのような趣旨から、大学教育開発センターの一つの重要なミッションとして、F D研修会を企画させていただいています。「良い研究者でなければ、良い教育者にはなれない」というのが、伝統的な大学教授のイデオロギーでしたが、多くの調査はこのような言説を支持していないように思われます。

平成17年度、大学教育開発センターでは、7月に新任で採用された先生方を対象にF D研修会を開催しています。全学共通教育担当者を対象としたF D研修会は第2弾ということになります。今回のF Dではまず全学共通教育の趣旨、教育目標等の共有化をお願いしました。全学共通教育は専門教育と違って、ともすれば教育目標が不明確になりがちです。教養ゼミナールの目標、主題科目の目標、共通科目の目標、外国語教育の目標など、それぞれの科目にはそれぞれの理念があり、それぞれの教育目標があります。そうした教育の全体像を理解していただく必要があります。大学の授業は、学生たちの前に立って先生方の好きなこととお話していただいたらいいというわけではありません。学生も、先生方の個人塾に通っているわけではありません。先生方に期待されている授業内容をご理解いただいて、今後の授業実践に活かしていただければ幸いです。

先般、平成16年に実施した「学生生活実態調査」の報告書が刊行されました。全学共通教育に対する学生の満足度は、学部教育に比べて必ずしも高いものではありません。もちろん、全学共通科目とくに「主題科目」や「共通科目」は多人数授業であるので、そのことが影響していることは容易に推

察されるのですが、一方で、全学共通教育の目標が学生にも教員にも明らかになっていない部分があるのではないかと考えています。そのため、大学教育開発センターでは、香川大学の全学共通教育の理念と目標が一目でわかるようなパンフレットを発行し、できるだけ早い機会に先生方及び学生たちに配布したいと考えています。

大学という組織はともすれば専門主義に流れます。その点で、全学共通教育や教養教育にはいつも逆風が吹いており、実際にも難しい岐路に立たされているのではないかという気がしています。反面で、研究は論理的必然性として細分化、個別化、たこつぼ化するので、全学の学生を対象とする全学共通教育や教養教育は、専門主義にとらわれない教育が展開できるという楽しさもあります。

香川大学は単なるカレッジの集合体ではなく、ユニヴァーシティとして位置づけることができます。その点では、全学のコミュニケーションの広場として、教育論議に花を咲かせていただくのも悪いことではありません。この報告書が、FD研修会を行ったという単なるアリバイで終わることなく、構成員の皆様に活用され、大学教育がますます活性化することを祈念しています。

平成18年2月